



特色ある取組

● 水循環のモデル化によって、河川流域の環境管理に貢献する

-宮崎大学では、河川流域において水循環（流量）をシミュレーションするモデルの開発を行っている。このモデルを応用して、河川生物の生息条件として重要な流況（流れ）を計算し、それに対する生態系の応答について調べることで、河川環境を評価することが可能となる。
-これにより、河川の治水において重要な流量の情報を提供できるだけでなく、コスト面から包括的な調査が難しい環境・生物の潜在的な状況を広域的に予測・可視化するための技術開発を行っている。

● 気候変動下の流況変化に適応するための、河川流域の環境管理

豪雨災害が毎年のように発生しており、気候変動に備えた治水対策の社会的重要性がますます高まっている。本取り組みの特長として挙げられることは、気候変動や人為的開発に対する水循環の変化をモデル内に組み込むことで、それに対する河川流況や生態系の変化を予測することが可能な点にある。

期待できる成果

将来的に予想される気候変動と河川整備が、河川環境にどのような影響を与えるか予測・可視化できれば、今後の河川管理における意思決定に貢献できると考える。

